

平成 25 年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

新富山工業高校になって 2 度目の卒業生が卒業した本年は、学校の特色及び工業高校としての社会的ニーズも考慮して「学校経営計画」を策定し、その中の「学校アクションプラン」において全日制では 4、定時制では 2、合計 6 の重点課題を設定した。各重点課題に対する取り組み状況や評価等は、アクションプランに記載したとおりである。

資格取得への取り組みにおいて、合格率の数値目標を達成できなかった。このことについて、学校評議員の方から指摘を頂いたとおり、工業高校の多くの生徒に取得させたい基本的な資格・試験と、生徒のやる気を引き出そうとする、より高い技術レベルの資格取得に挑戦させる性格のものに分けた評価方法を工夫する必要がある。

体育系部活動や工学系ロボット競技大会などでは、大きな成果が見られた。また学校行事等への生徒の積極的な取り組み姿勢について、学校行事の企画運営面においても他人事にせず積極的に取り組めたかどうか、これまでよりも踏み込んだ生徒の様子を捉えようとした調査を行っている。

定時制の重点課題については、多くの困難を伴う中で、資格取得や皆勤精勤について成果を上げている。

学校評議員会を 2 度開催し、本校の重点課題への取り組みについて報告した。評議員の方々からは概ね高い評価を頂き、また様々な提言も頂いた。今後とも、評価手法の工夫も含め、取り組み内容を見直し、よりよい学校経営に生かしていきたい。

7 次年度に向けての課題と対策

- (1) 今年度の学校評価の結果に基づき、本校の現状と課題について職員全体で謙虚に受け止め、計画の改善と取り組み体制の強化に努めていく。
- (2) 達成目標の妥当性を十分に検討し、また具体的な調査手法についても工夫して、重点課題への効果的な取り組みを目指す。
- (3) アクションプランを公開することにより、学校の取り組みに対する地域や保護者の理解を頂き、学校とのより緊密な連携を目指していく。
- (4) 本学校評価システムを通して、職員全体が学校の教育活動への共通理解を深め、生徒の人間形成や自己実現に向けた、真に有意義な教育活動に結びつける様に努める。

学校アクションプラン（全日制）

平成25年度 富山工業高等学校 アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動（学習指導の充実）
重点課題	工業高校としての学力の向上
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 各学科では、専門分野に関する検定合格や資格取得に向けた補習を行っている。また専門分野外の英検、数検ほか検定受検者も増加傾向にある。 平成24年度は延べ1594人が各種検定や資格試験に合格しており、合格率は69.4%、1人平均の資格取得数は1.68となる。
達成目標	各種検定・資格の合格率（1人当たりの検定合格または資格取得数） 合格率 70%（1人平均1.7）
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 校内指導体制の改善・充実と外部の専門技術者の招聘や活用を図る。 朝学習などの時間の有効活用により学習時間の確保を図る。 ジュニアマイスター制度や校内顕彰制度および単位認定制度などの周知徹底を図る。 検定合格や資格取得を目指し、学習意欲の向上や学習習慣の定着につなげる。 学科の枠を超えた指導体制などの取組みを検討する。
達 成 度	合格率 62%（1人平均1.7）
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 資格、検定試験の年間スケジュールやジュニアマイスター関連情報を全生徒に配布。 資格、検定の合格を目指し、計画的かつ意欲的な取組みを啓蒙。職員室前等に掲示。 受検可能な資格・検定を増やし、案内した。
評 価	<p>D</p> <p>平成25年度の合格者は、受検者2596人中1608人であった。情報技術検定やボイラー技士、測量士補は合格率が下がった。一方、電気工事士、建築施工技術者、技能検定などは合格率が上昇した。国家資格に挑戦し合格する生徒も出ており、今後、指導法や取組み方の改善等で伸張を期待したい。</p>
学校評議員の意見	<p>全部の資格、検定をならして数字を出してしまうと、どうしても数値が下がってしまうこともあるだろう。そうではなくて、工業高校生としてどうしても取得してほしい資格については高い目標を設けて、それを単独で評価することとし、一方、高度な上級の資格取得を目指す生徒に対しては、それがたとえ低い合格率になったとしても、成果があったと評価できることもあるのではないか。上級の資格試験に対しては、複数回の挑戦で獲得する場合もあるのが普通だ。合格不合格ではなくて、生徒が上級レベルの試験に挑戦しようとする気持ちを大切にするようにして、むしろそれを評価対象とすることも考えてほしい。</p>
今後に向けての課題	<p>朝学習、授業、HR等を活用して学習時間を増やす一方で、生徒の学力差や基礎学力不足等を考慮し、指導内容や指導体制の充実・改善に取り組む必要がある。</p> <p>幅広い視野を持ち、厳しい経済状況や雇用情勢を考慮すると共に、進路希望や自己実現を目指して、学習習慣や資格取得への意欲・関心を高めていくよう更に啓蒙する必要がある。</p>

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	学校生活（生徒指導の充実）	
重点課題	自発的な基本的生活習慣の確立	
現 状	生徒数が大幅に増加したことで、生徒の気質も多岐にわたり、その対応に苦慮することが多くなってきた。従来への対応では、生徒指導の教育的効果を上げるまでには至らない現状がある。基本的生活習慣（あいさつ・身だしなみ・時間厳守等）の徹底と向上を求めるための対応策を継続的に実践する必要がある。	
達成目標	各項目（あいさつ、身だしなみ、時間厳守、公共の場でのマナー）ごとの達成度 全校生徒の6割以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・入室許可制を徹底し、生徒に遅刻の防止を呼びかける。 ・校外での行動に目を向けさせ、学校生活で学んだことを社会で実践させる。挨拶、身だしなみ、公共の場におけるマナーを学年、全校集会などを通して呼びかけを徹底する。 ・自転車車輦整備の指導、服装・頭髪の指導において、個人指導カードを活用する。 ・生活見直しアンケートを定期的（年3回実施）に行い、自らの行動の見つめ直しを図り、以後の生活実践へのきっかけとする。 ・スマートフォンや携帯電話等によるネット利用の現状について、PTAとの協議の場を設ける。 	
達 成 度	第2回生活アンケート調査（1月9日実施）で、あいさつに関わる項目で754名、身だしなみに関わる項目で831名、時間に関わる項目で800名、マナーに関わる項目で883名の生徒が正しい行いができたと答えた。	
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の学級指導や学年指導を実践するにあたり、より具体的な生活場面を提示し生徒の理解度を高めた。 ・各学年主任と生徒の生活態度や問題行動についての情報交換を行うとともに、問題行動に対しての指導について共通理解を図った。 ・生徒に関わる情報をできるだけ多くの教諭に伝え、多面的に生徒指導を実施した。 	
評 価	A	4項目全てにおいて6割を上回った。
学校評議員の意見	<p>会社勤めでは、身だしなみは、そのまま最終的な製品品質に現れるという、明確な理由を基に指導することができる。また、会社には外部では監査があり、工場の機器や生産ラインの様子と同時に、そこで作業する人を見て行かれる。トイレ、ロッカー、廊下での対応、工場での人の動き等に注目されます。従って、会社では服装をきちんとできない人は辞めて下さいという姿勢で対応している。</p> <p>私の会社の場合で言えば、建て主さんとの話の場で、やはり先ずは服装、挨拶といったものが大切になってきます。きちんとした身だしなみの指導を期待します。</p>	
今後に向けて の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒はあいさつ、身だしなみ、マナー、時間を厳守しているのとらえているようである。しかし、他者から見ればその基準は非常に緩いものであり、今後はより質の高い行動につなげる手だてが必要である。 ・生活上の行動目標を学年ごとに系統化し、計画的に生活指導を継続する必要がある。 	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

平成25年度 富山工業高等学校 アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援（進路指導の充実）	
重点課題	生徒の希望に対応した進路決定	
現 状	<p>昨年度は、高等学校再編統合により学年が6学科8クラス編成となって初めての卒業生を送り出した。生徒一人一人に対するきめ細かな指導・援助を一層充実させ、生徒自らが進路を選択できるように、学校生活の各段階に合わせて指導すると共に、その進路先に適応し、自己実現を図っていく上で必要な諸能力（基礎学力、計画性、判断力、適応力など）の向上に努めることが重要である。</p>	
達成目標	3学年における進路希望の達成度（就職試験1次内定率、進学先第1希望合格率）	
	85%	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・企業訪問や情報収集を積極的に行い、生徒の就職先の確保に努める。 ・インターンシップや応募前職場見学等を通して、生徒自らが企業についての情報を収集し、その上で就職先を決定できるようにさせる。 ・オープンキャンパス、学校説明会など積極的に参加させ、進学先を決定させる。 ・資料閲覧室を利用しやすいように環境を整え、資料閲覧や相談に対応する。 ・面接指導、補習など工業科、普通教科の全面協力を得てきめ細かい指導をする。 	
達 成 度	<p>就職試験には223名（公務員を含む）が応募し、1次内定率は88.8%であった。入学試験には81名が応募し、第1希望合格率は92.7%であった。</p>	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職、学年、学科、進路指導部で分担し、約120社の企業を訪問した。 ・求人票受付後は、求人一覧を作成して掲示し、生徒にも配布した。 ・求人票の写しを2部ずつファイルに整理し、教室の近くで閲覧できるようにした。 ・就職希望者全員が応募前見学に参加し、応募先を決定した。 ・面接指導などの採用試験対策を、学年・学科・管理職との連携により実施した。 ・学校説明会、オープンキャンパスなどに積極的に参加させ、進学先決定の一助とした。 ・外部模試、学力向上セミナー、校内夏季補習などを実施し、学力の向上の機会とした。 ・面接、小論文、教科等の個別指導を実施し、各生徒の希望に応じた受験対策がとれるよう、各学科・各教科との連携を推進した。 ・製造業を中心とするインターンシップ（7月中旬に3日間）を実施し、2学年316名の生徒が参加した。 	
評 価	A	新高校となって初めて目標を達成することができた。
学校評議員の意見	<p>実社会において、運動系の者は頑張りが違う。建設業では屋外での仕事になる。部活で鍛えられたり、団体で頑張ったりしてきた子は、勉強だけしてきた子と違う。若者はみんなホワイトカラーを目指しているようだが、たくましく、がんばりがきく、ふんばりがきく子を育ててほしい。</p>	
今後に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早い段階からの進路目標設定 ・ 生徒一人一人に対応したサポート ・ コミュニケーション能力や職業観・勤労観を身につけるための指導 	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	特別活動（特別活動の活性化）	
重点課題	生徒会・代議員会を中心とした学校行事の活性化	
現 状	<p>体育大会、球技大会、富工展などの学校行事に対する生徒の意識は高く、協力的に行事を推進することができる。これまでの行事では生徒会や教師が中心的役割を果たしてきたが、代議員会等を活用して生徒達の意見を積極的に取り入れ、生徒達の自主的な計画・立案・運営を推進し一層の活性化を図る。</p>	
達成目標	<p>体育大会、球技大会において生徒会を中心として、生徒が自主的に学校行事の企画・運営に取り組み、全校生徒が意欲的に参加し、満足できるような活動を目指す。 （※事前事後のアンケート調査における、全校生徒に対する百分率とする。）</p>	
	<p>運営・企画に積極的な参加意識度 体育大会70%、球技大会60%</p>	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会に向けて代議員会を開き、昨年の事後アンケートの結果をもとにホームルームの意見を再確認する。学校全体（生徒）の意見を集約し、プログラムや競技規則、配点方法の見直しを実施する。 ・球技大会について生徒会が中心となり、代議員を通じてホームルームの意見をまとめ、生徒が意欲的に参加し満足できることを目指す。 	
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会運営・企画参加意識度 積極的44% どちらともいえない37% （目標値にとどかず）全般満足度84% ・球技大会運営・企画参加意識度 積極的70% （目標達成） 	
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会において <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部、団役員ミーティングをひらき運営の共通理解を図った。 ・役員ミーティングにおいて仕事の分担確認をおこなった。 ・球技大会 <ul style="list-style-type: none"> ・代議員をとおして実施種目の希望アンケートをおこなった。 ・生徒会執行部において実施種目の組み合わせ、ルールを定めた。 ・各部の協力をえて審判、運営にあたった。 	
評 価	C	
学校評議員の意見	<p>生徒全員が企画運営に関わることはないと思うので、全員に対して、企画運営に関わったかどうかというアンケート項目に対しては疑問を感じる。 （特活部長の回答）</p> <p>自分の出る競技以外に、どんな小さな事であっても、みんなの役に立てた、役割を全うできたという意識を持って行事に参加してくれるようにと言う意味でアンケートをとっている。生徒にとっても、アンケートの趣旨がわかりにくかったのかもしれない。</p>	
今後に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会において運営に関する委員会や打ち合わせを充実させる必要がある。 ・生徒会執行部の取り組みを早め、改善点等を提示、話し合う機会をもうける。 ・実技以外に一人一役を呼びかけることにより参加意識度を高める。 	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

学校アクションプラン（定時制）

平成25年度 富山工業高等学校 アクションプラン - 1 -															
重点項目	学習活動														
重点課題	学校設定科目「生活技能」による資格取得の推進														
現 状	高等学校卒業資格の取得を目的に入学してくる生徒が多く、工業を学ぶという目的意識を持った生徒が少ない。高校生としての読解力や計算能力等の基礎学力、一般教養が不足している生徒が多く、学力のばらつきも大きい。そこで、学校設定科目「生活技能」を導入し、個々の生徒に応じた基礎学力の向上を図っている。														
達成目標	全国工業高校長協会主催による資格と国家資格に合格する生徒の割合 60%以上														
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に生活実態調査、学力診断検査を行い、生徒がつまづいている段階を把握し、個々の生徒に応じた到達目標を設定する。 ・学力段階毎に章立てされた自作教材を使用し、学習させる。 ・関連する教科においても継続的に小テストを行い、基礎学力の向上を図る。 ・資格・検定の受検者を対象にした授業開始前、放課後補習態勢の改善と充実を図る。 ・社会生活に必要な基礎知識や教養を学ばせるため、外部講師による講話等を実施する。 														
達 成 度	<table border="0"> <tr> <td>1年生・・・資格試験に合格した生徒の割合</td> <td>87.5%(7/8名)</td> </tr> <tr> <td>2年生・・・資格試験に合格した生徒の割合</td> <td>100.0%(1/1名)</td> </tr> <tr> <td>3年生・・・資格試験に合格した生徒の割合</td> <td>66.7%(4/6名)</td> </tr> <tr> <td>4年生・・・資格試験に合格した生徒の割合</td> <td>100.0%(3/3名)</td> </tr> <tr> <td>合格した生徒の全体の割合</td> <td>83.3%(15/18名)</td> </tr> <tr> <td>全国工業高校長協会主催による合格者全体の割合</td> <td>87.5%(14/16名)</td> </tr> <tr> <td>国家資格合格者の全体の割合・・・</td> <td>50.0%(3/6名)</td> </tr> </table>	1年生・・・資格試験に合格した生徒の割合	87.5%(7/8名)	2年生・・・資格試験に合格した生徒の割合	100.0%(1/1名)	3年生・・・資格試験に合格した生徒の割合	66.7%(4/6名)	4年生・・・資格試験に合格した生徒の割合	100.0%(3/3名)	合格した生徒の全体の割合	83.3%(15/18名)	全国工業高校長協会主催による合格者全体の割合	87.5%(14/16名)	国家資格合格者の全体の割合・・・	50.0%(3/6名)
1年生・・・資格試験に合格した生徒の割合	87.5%(7/8名)														
2年生・・・資格試験に合格した生徒の割合	100.0%(1/1名)														
3年生・・・資格試験に合格した生徒の割合	66.7%(4/6名)														
4年生・・・資格試験に合格した生徒の割合	100.0%(3/3名)														
合格した生徒の全体の割合	83.3%(15/18名)														
全国工業高校長協会主催による合格者全体の割合	87.5%(14/16名)														
国家資格合格者の全体の割合・・・	50.0%(3/6名)														
具体的な取組状況	1学期末終了時に生活実態調査を行い、個々の生徒に応じた到達目標を設定した。今年度は2、4年生の達成度が極めて良い状態である。機械科4年生2名、機械科3年生2名は機械製図検定に合格している。これまで連続2年間、危険物全種類合格者を出していたが、今年は4種類の合格にとどまった。今年度、国家資格に挑戦する生徒が減ったことは資格取得の意欲の低下からきており、今後対策が必要である。生産機械科3年生1名はジュニアマイスターシルバーを受賞した。														
評 価	B 資格試験に合格する生徒の割合が12月末現在で83.3%になり目標を達成したのだが昨年と比べて合格率が若干下がったので評価をBとした。														
学校評議員の意見	個々の生徒に対応した指導がなされている。														
今後に向けての課題	今年度、資格取得に挑戦したいと思う生徒が少なくなっている。無理矢理挑戦させているのが現状で、専門の勉強が嫌いな生徒が多くなっている。もう少し何事にも挑戦する気持ちを持ち続けてもらえるように生徒に働きかけたい。														

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	学校生活																																							
重点課題	基本的な生活習慣の確立																																							
現 状	<p>家庭生活や生育歴、社会生活状況において問題点を抱える生徒が多い。過去3年間、生徒全体の出席率は平均95%前後で推移しており、授業遅刻や早退も少なくない。</p> <p>一方生徒の中には、きちんとした高校生活を歩もうと努力している姿も見られる。働きながらも年間を通じ無欠席の生徒もいる。こうした生徒たちには、毎日登校する習慣を大切に、自分の将来を考えている向きが感じられる。</p>																																							
達成目標	<p>年間の皆勤・精勤生徒の割合</p> <p style="text-align: center;">*皆勤 = 1カ年の欠席が0日 *精勤 = 1カ年の欠席が3日以内 (22年度は15%、平成23年度は21%、24年度は20%)</p> <p style="text-align: center;">21%</p>																																							
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 生活状況を確認し、生活リズムを確立させるとともに、就業ガイダンスの充実を図る。 日常生活の見直しを行う。健康管理の個別指導を行う。体調管理を行う。 年度末に表彰する皆勤賞、精勤賞を生徒の励みにさせるよう、日々の生活支援を行う。 保護者と緊密な連絡体制をとり、生徒の心身等の変調の早期発見、早期対策を講じる。 																																							
達成度	今年度の皆勤・精勤生徒の割合 32% (在籍25名中8名 12月24日現在)																																							
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の健康や生活状態を確認 (STなどでの声かけ) 始業前と授業間の巡回指導 (教員2名での校内を見回り、出席状況を確認) 保護者との連携 (生徒の状況を相互で掌握、速やかに対応) 教育相談 (非常勤カウンセラーとの面談により悩みなどの早期発見) 授業出欠状況の確認と生活指導 (授業担当者による遅刻・欠席時数の集計) <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">学年</th> <th>1学期</th> <th>2学期</th> <th>合計</th> <th rowspan="2">一人あたり 年間欠席日数</th> </tr> <tr> <th>欠席数</th> <th>欠席数</th> <th>欠席数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年(8名)</td> <td>25</td> <td>52</td> <td>77</td> <td>9.6</td> </tr> <tr> <td>2年(6名)</td> <td>13</td> <td>18</td> <td>31</td> <td>5.2</td> </tr> <tr> <td>3年(7名)</td> <td>5</td> <td>11</td> <td>16</td> <td>2.3</td> </tr> <tr> <td>4年(6名)</td> <td>23</td> <td>32</td> <td>55</td> <td>11.0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>66</td> <td>113</td> <td>179</td> <td>全校平均欠席日数</td> </tr> <tr> <td>男24 女1 25名</td> <td colspan="3"></td> <td>6.88 日</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">*2学期は12月24日現在</p> <p style="text-align: right;">学年・学期ごとの欠席状況</p>		学年	1学期	2学期	合計	一人あたり 年間欠席日数	欠席数	欠席数	欠席数	1年(8名)	25	52	77	9.6	2年(6名)	13	18	31	5.2	3年(7名)	5	11	16	2.3	4年(6名)	23	32	55	11.0	計	66	113	179	全校平均欠席日数	男24 女1 25名				6.88 日
学年	1学期	2学期		合計	一人あたり 年間欠席日数																																			
	欠席数	欠席数	欠席数																																					
1年(8名)	25	52	77	9.6																																				
2年(6名)	13	18	31	5.2																																				
3年(7名)	5	11	16	2.3																																				
4年(6名)	23	32	55	11.0																																				
計	66	113	179	全校平均欠席日数																																				
男24 女1 25名				6.88 日																																				
評 価	A	目標とする割合21%を達成した。ただし、家庭事情等による退学者が3名あったことや、遅刻がちな生徒が数名おり、指導上の課題を抱えている。																																						
学校評議員の意見	多くの困難を抱えられていることが分かる。引き続き努力してほしい。																																							
今後に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々に応じた生活目標を設定し、日々の生活状況を確認しながら助言する。 就業ガイダンスを行い、卒業後を念頭においた学校生活での意欲向上を図る。 家庭環境に留意し、必要に応じて中学校や外部機関と連携を行う。 充実感や達成感を与えるよう指導を工夫し、学習活動を行う。 																																							

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)